

2019年度 校内研究テーマ

共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成

～道徳科における考えたくなる導入の工夫と振り返りを保障する授業を通して～

第6学年 道徳科学習指導案

主題：広い心

「あやまってすむことじゃない」【B 相互理解、寛容】



令和元年 11月25日（月） 5校時

豊見城市立豊崎小学校 6年5組

第6学年 道徳科学習指導案

令和元年11月25日(月)第5校時

6年5組 男子17名 女子15名

指導者

共同研究者

1 主題名 広い心 道徳の内容B-(10)相互理解、寛容

2 ねらい

◎相手の過ちを、謙虚な心で受け止め、広い心で人と接していこうとする。

3 教材名 あやまってすむことじゃない(出典：光文書院「ゆたかな心」)

4 主題設定の理由

(1)道徳的価値

指導内容は、B「主として人との関わりに関すること」の(10)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。」である。

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に批難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自分本位に陥りやすい弱さをもっている。相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受けとめることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会をつくっていくために必要な資質・能力である。

5、6学年の時期には、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。このような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できる態度を育てるようにする。

(2)児童観

事前アンケートによると、本学級は「自分に不都合であることが起こると許せない」という児童が過半数いることがわかった。そこで、なぜ許せないか理由づけて考え、「自分と置き換えて考える」などの心構えや許すと「友達(相手)が喜ぶ」「よりよい学級になる」などの意義を関連付け考えさせる。そして、自分と置き換えて考えることや相手の立場を理解することや認め合えることなどの「許すことの良さ」を考えさせていく。

また、道徳の時間においては、本学級の児童は、登場人物の心情やその背景と自らの生活場面を関連付けて捉え、振り返ることはできる。しかし、それらを生活経験の異なる子どもと積極的に交流し、自らの道徳的価値に対する見方・感じ方・考え方を深めたり広げたりしようとするまでは至っていない。そこで、事前アンケ

ートを基に、自分の経験や考えを伝え合う対話活動を行う。道徳的価値のもつ意味を主人公や自らの生活場面と関連付けて考えさせ、学んだこととこれからの自分の生き方とのかかわりを意識させる。

(3)教材観

本教材は、身近な日常生活を題材としており、児童に自分自身のこととして考えさせることができる。たけしは、楽しみにしていた外食を、店員の過ちで予約されていなかったことが分かり、がっかりする。謝っている店員を許せないたけしは、「あやまってすむことじゃない」と心の中でつぶやく。そのとき、自分が「あやまってすむことじゃない」と言われた経験を思い出す。それは、自分の過ちで弟を怒らせ、謝っても許してもらえなかったという苦い経験であった。「心からお詫びする気持ち」が受け入れられないことや、弟に自分の過ちを許してもらえなかったことに直面したたけしを通して、失敗はだれにでも起こり得るゆえに、広い心で許すことの大切さを感じさせられる教材である。

また、関連項目として、困っている人の気持ちが分かり、その苦しみをわがことのように受け止め、その人の立場に立って考える思いやりの心とも関連づけていきたい。

(4)校内研究との関連

導入では、本資料の「起きた出来事が許せるかどうか」について問い、自分事として考えさせる。展開中段では、「自分に不都合なら許すのは難しいのではないか」について、事前アンケートをもとに過去の経験をふり返る。そこでは、相手の立場を理解したり、自分と置き換えて考えたりする気持ちを自分の生活場面と関係づけたり、他の見方や考え方、感じ方と比較させたりする場を設定する。

中心発問では、「許せないとどうなるか、許せるとどうなるか」について、自分や相手、学級を視点として考えさせ、グループで意見を交流し、全体で共有を図る。対話活動を通して、考えを深めたり広げたりし、これからの実践意欲につなぐ。

5 本時の学習

(1)授業の工夫

- ①自分たちの身近な出来事で「許せる」か「許せないか」考えたくなるような導入。
- ②問題解決型の学習におけるスケール表の利用。

※道徳におけるスケール(スケーリング)

ある行為や心情を取り上げて、その「行為や心情の善し悪しとその理由」を判断するための一つの方法である。

今回の授業では、板書のスケールの中でネームプレートを用いて、「許す」「許せない」「わからない」という立場を明確にするために使う。

(2)学習指導過程

| | 学習活動 | ○発問◎中心発問・予想される反応 | ・指導上の留意点☆評価 |
|-----------|--|--|--|
| 導入 5分 | 1 資料「あやまってすむことじゃない」の173ページ10行目までを読み、起きた出来事が許せるかどうか考える。 | ○「もしこの出来事が起きたら許せますか。」 ・許せない。楽しみにしていたから。 ・許せる。店員の一生懸命な様子が見られるから。 | ・「許せる」か「許せない」か自分事として考えさせる。 |
| 展開 30分 | 2 資料「あやまってすむことじゃない」を最後まで読み、「たけし」が店員を許した行為の背景について話し合う。 (10分) 3 自分たちの経験をもとに話し合う。(20分) ・ペアで自分の考えを述べ合う。 ・スケールを使い「許せない」「許せる」「わからない」立場を決める。 ・グループで意見を交流し、自分の考えをノートに書く。 ・全体で共有する。 | ○「どうしてたけしは、はじめ腹が立っていたのに、最後には失敗が許せるようになったのでしょうか。」 ・はじめは、「相手が悪い」とだけ思っていた。 ・「誰か席を替わってほしい」と思っていた。 ・店員さんの立場を考えて、許すことができた。 ・自分の経験を思い出して、許すことができた。 ○自分に不都合なら許せるのか。 許せない ・自分が損するから。自分に不都合だから。 許せる ・許すことで心が清々しくなる。 ・相手を受け入れられ、お互い認め合える。 ・皆、幸せになれる。 わからない ・許すことで何が起こるか想像できない。 ・許したいけど、許せない。 | ・たけしが自分の経験を思い出して、店員さんの気持ちに思い至ることができたことに気づかせる。 ・児童のアンケートを基に生活体験における許せないことを考えさせる。 ・考えに理由付けさせる。 ・許せないと答えた子たちに「自分は人に都合が悪いこと(失敗)をしたことが無い？」と問い返す。 ・スケールの移動があるか問う。 ・自分や相手、学級を視点として答えさせる。 ・許せないと答えた子たちに「許せないままでいいのか」と問う。 ・「たけし」の家族はどうだったか振り返る。 ・再度スケールリングする。 |
| | 4、話し合ったことをもとにまとめる。(5分) | ◎許せないとどうなりますか。また、許せるとどうなりますか。 ・許せないとスッキリしない。 ・相手と関係が悪いままだ。 ・学級の雰囲気が悪く居心地が悪い。 ・許せるとすがすがしくなる。 ・友達と仲良くなれる。 ・学級で楽しく過ごせる。 | ☆許すことの良さについて考えることができた。 (発言、ノート) |
| 終末 5分 | 5 今日学んだことを振り返る。 | ②学習する前と後の考えが変わったところ ⑥友達の意見を聞いて、どんな考えからどんな考えに変わったか ⑦これからやってみたいこと | ☆今後の生活に生かそうとする意欲が持てたか。 (発言、ノート) |

(3) 評価：許すことの良さについて考えることができ、今後の生活に生かそうとする意欲が持てたか。

(4) 板書計画

